

平成25年度(2013 年度)

# 授業モデル等箕面市スタンダードづくり に関する研究 「箕面の授業の基本」

箕面市教育委員会では、授業づくりについて、内容や校種、教科を問わず、どの授業でも授業者が取り入れる「授業モデル」的性格をもった、「授業モデル等箕面市スタンダードづくりに関する研究部会」を設置し「箕面の授業の基本」の作成に取り組み教員の授業力の向上を目的とする。

## <研 究 員>

村上 恵梨子	箕面市立箕面小学校	山本 ゆう	箕面市立萱野東小学校
山本 歩美	とどろみの森学園 (箕面市立止々呂美小学校)	勝田 知美	箕面市立豊川北小学校
原 淑子	とどろみの森学園 (箕面市立止々呂美小学校)	山岡 真紀	箕面市立中小学校
斉藤 直子	箕面市立萱野小学校	高取 貞光	箕面市立豊川南小学校
杉本 靖代	箕面市立北小学校	山口 純	箕面市立萱野北小学校
安東 剛史	箕面市立南小学校	上野 広司	箕面市立彩都の丘学園 (箕面市立彩都の丘小学校)
藤山 哲章	箕面市立南小学校	益住 麻衣	箕面市立第一中学校
本田 雅子	箕面市立西小学校	赤城 龍一	箕面市立第二中学校
新居 達	箕面市立東小学校	堀米 美恵子	箕面市立第三中学校
岡田 いづみ	箕面市立西南小学校	坂本 学	箕面市立第四中学校
足立 稔美	箕面市立西南小学校	渡邊 裕樹	箕面市立第五中学校
		塩田 和也	箕面市立第六中学校
		酒本 あゆみ	箕面市立彩都の丘学園 (箕面市立彩都の丘中学校)
		中嶋 香菜	箕面市立彩都の丘学園 (箕面市立彩都の丘中学校)

## <指導・助言>

主原 照昌	子ども未来創造局	陸奥田 維彦	とどろみの森学園
-------	----------	--------	----------

## はじめに

平成19年度（2007年度）に全国学力・学習状況調査が始まり今年度で6年が経過しました。さらに、平成24年度（2012年度）から箕面市独自で箕面子どもステップアップ調査を開始して、今年で2年目となります。

それらの結果から、本市の子どもたちの学力は、全国との関係で一定程度高い状態がありますが、「自ら学ぶ態度」、「自ら考えを書く力」、「学習したことを活用する力」、「自分の考えや意見を説明し、発表する力」など、今という時代を生きる子どもたちに強く求められている重要な学力に課題があることが明らかになっています。

そこで、本市では、学習に取り組む「関心・意欲・態度」を醸成し、「思考力・判断力・表現力」を育てる授業の実践が喫緊の課題となっています。

## I 研究テーマ

学校の学びの文化を育む授業づくり（主体的に取り組むことができる授業づくり）

- ・ 自分の考えを書く力を育む
- ・ 学習したことを生活で活用する力を育む
- ・ 人に自分の考えや意見を説明する力や発表する力を育む
- ・ 授業の中で学び合いを育む

## II 研究の方法

全国学力・学習状況調査で常に上位の成績に位置している、授業づくりの先進地である秋田県由利本荘市の小中学校へ、昨年度、今年度にわたって、教員及び教育関係者が訪問し組織的に取り組む授業づくり・学力向上の取り組みを学びに研修を深めてきました。

秋田県由利本荘市へ研修に行かれた教員はもとより、各校での研究部から、一名の研究員を希募集して組織しました。

研究については、毎月定例的に研究部会を開催し、全体でテーマを決め共通認識を行ったのち、グループワーク等協議を深めました。また、8月の教職員全体研修の場において、研究員より、秋田県由利本荘市での研修内容の報告と箕面市がめざす授業づくりの方向性を提示し、共通理解を測った。

2学期には研究員を中学校校区にグループ編成し、研究員が自校に於いて研究授業を実施した。また、中学校校区代表者の研究授業では、校区の研究員が授業を参観し研究協議で議論を交わした。全体の代表者研究授業を小学校より西小・中学校では第二中学校で行い、研究員全員がその授業を参観し研究協議を重ね意見をまとめた。また、校長先生や学校からの意見も含め、全体の研究部会で集約し、「箕面の授業の基本」のたたき台とした。

### Ⅲ 研究内容

回	日時	時間	内容
第1回	5月15日(水)	15:30 ~ 17:00	年間活動計画策定 ・研究授業について グループワーク (陸奥田教頭) ・秋田県視察者からの報告 豊川南小 高取研究員 彩都の丘学園 中嶋研究員 萱野北小 山口研究員 ・授業でそろえた方がいいと思うこと
第2回	6月19日(水)	15:30 ~ 17:00	「今後に向けて」 -めざす授業観を共有しよう-part1 グループワーク 「いま求められている学力」 ・よい授業とは ・悪い授業とは
第3回	7月10日(水)	15:30 ~ 17:00	・「今後に向けて」 -めざす授業観を共有しよう-part2 「児童・生徒に力がつかない、よくない授業 ってどんな授業？」 ・年間スケジュールの説明 ・箕面市の課題を踏まえて (思考力・判断力・表現力) (主体的な態度) (授業全般) の観点でグループワーク ・8月8日教職員全体研修会に向けて
準備会	7月25日(木)	10:00 ~ 12:00	・教職員全体研修会の内容検討 全体研修会での報告者
準備会	7月29日(月)	15:00 ~ 17:00	・教職員全体研修会の内容検討 全体研修会での報告者
準備会	8月2日(金)	13:00 ~	教職員全体研修会 全体研修会での報告者リハーサル
準備会	8月7日(水)	13:00 ~	教職員全体研修会 全体研修会での報告者リハーサル
全体会	8月8日(木)	12:45 ~	教職員全体研修会報告
第4回	9月11日(水)	15:30 ~ 17:00	・「箕面の授業の基本」たたき台の提示 ・中学校校区班編成 中学校校区の代表者選出 ・研究員の研究授業に向けて

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全体研修会でのアンケート集計報告</li> <li>・今後の研究部会スケジュール確認</li> </ul>
研究授業	10月21日(月)	6限目	研究授業(四中・六中校区代表研究授業) 第六中学校 塩田教諭 3年 数学「いろいろな関数(2次関数の活用)」
研究授業	10月25日(金)	5限目	研究授業(一貫校区研究員授業) とどろみの森学園(小学校) 原教諭 2年 生活
研究授業	11月5日(火)	4限目	研究授業(三中校区研究員授業) 西南小学校 岡田教諭 3年 国語「説明のし方を考えよう」
研究授業	11月11日(月)	2限目	研究授業(五中校区研究員授業) 第五中学校 高橋教諭 3年 国語「古典 万葉・古今・新古今」
研究授業	11月14日(木)	5限目	研究授業(一中校区研究員授業) 箕面小学校 村上教諭 5年 算数「分数をもっと知ろう」
研究授業	11月15日(金)	6限目	研究授業(一貫校区代表者研究授業) とどろみの森学園(小学校) 山本教諭 5年 国語「大造じいさんとガン」
研究授業	11月18日(月)	2限目	研究授業(三中校区代表者研究授業) 第三中学校 堀米教諭 3年 英語「Interesting Language」
研究授業	11月19日(火)	3限目	研究授業(五中校区代表者研究授業) 第五中学校 渡邊教諭 1年 英語「Junior High School in America」
研究授業	11月21日(木)	5限目	研究授業(五中校区研究員授業) 中小学校 山岡教諭 5年 国語「天気を予測する」
研究授業	11月22日(金)	2限目	研究授業(四中・六中校区研究員授業) 豊川北小学校 勝田教諭 1年 算数「どちらがひろい」
研究授業	11月25日(月)	6限目	研究授業 (二中校区代表者研究授業) (中学校全体代表者研究授業) 第二中学校 赤城教諭 1年 英語「canの疑問文」
研究授業	11月27日(水)	5限目	研究授業 (一中校区代表者研究授業) (小学校全体代表者研究授業) 西小学校 本田教諭 3年 算数「重なりに目をつけて」

研究授業	11月29日(金)	2限目	研究授業（一貫校区研究員授業） 彩都の丘小学校 上野教諭 5年 算数 「四角形と三角形の面積」台形の面積の求め方を考え、算数用語を使って説明できる
		3限目	研究授業（一貫校区研究員授業） 彩都の丘中学校 酒本教諭 6年 国語 「名詞」名詞の種類を見分け、それぞれの名称を知る
		5限目	研究授業（五中校区研究員授業） 萱野小学校 斉藤教諭 4年 算数「考える力をのばそう」
		5限目	研究授業（三中校区研究員授業） 南小学校 藤山教諭 5年 社会「自動車工業のさかんな地域」
研究授業	12月3日(火)	1限目	研究授業（三中校区研究員授業） 西南小学校 足立教諭 7年 総合「外国語」 「What time do you get up?」
研究授業	12月4日(水)	3限目	研究授業（二中校区研究員授業） 萱野北小学校 山口教諭 5年 体育「バスケットボール」
研究授業	12月5日(木)	4限目	研究授業（四中・六中校区研究員授業） 東小学校 新居教諭 6年 体育「跳び箱・台上前転」 器械運動領域
研究授業	12月9日(月)	4限目	研究授業（四中・六中区研究員授業） 豊川南小学校 高取教諭 6年 社会 「新しい日本のあゆみ」
第5回	12月11日(水)	15:30 ~ 17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践から見てきたこと、考えたい視点について協議</li> <li>・グループワーク 「授業で大切にしたい学習活動」の中で、課題をつかむ 自力解決 学び合い まとめ・ふりかえり の4項目について、各グループに分かれ、大切にしたいポイントベスト3を選び、代表者が発表する。</li> <li>・学校長や各校からの意見を集約する。</li> <li>・1月の教育フォーラムでの報告者を決定するとともに、報告内容の精査を行う。</li> </ul>

第6回 臨時研究 部会	1月7日(火)	15:30 ~ 17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育フォーラムの報告者・報告内容の確認。 課題をつかむ (第二中 赤城研究員)</li> <li>自力解決 (萱野北小 山口研究員、南小 安東研究員)</li> <li>学び合い (萱野小 斉藤研究員、箕面小 村上研究員)</li> <li>まとめ・ふりかえり (第五中 渡邊研究員)</li> <li>・スーパーバイザーより、見えてきたこと、 大切にすべき内容について (とどろみの森学園 陸奥田教頭)</li> <li>・「箕面の授業の基本」の活用について (こども未来創造局 主原次長)</li> </ul>
準備会	1月10日(金)	17:30 ~ 19:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育フォーラムの報告者最終確認</li> </ul>
教育フォー ラム	1月15日(水)	15:00 ~ 17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「箕面の授業の基本」第一版の報告</li> </ul>

#### IV 研究の結果・研究のまとめ

箕面市の子どもの学力の課題は、「自分で考えを書く力」、「学習したことを生活で活用する力」「人に自分の考えや意見を説明したり発表したりする力」が求められています。

時代を担う子どもたちに必要な能力を育て、これらの課題を解決するには、本来の学びの楽しさ、喜びである、「課題を解決する中で自らの考えを発表したり、仲間と学び合う中で深め合ったりする学習法」や、「子どもが主体の学習方法」が必要です。箕面市がめざす授業は「課題解決的な学習」です。課題解決的な学習は、言語活動を重視して、子どもの思考の流れにそって学習過程を組み立て、子ども主体の授業を実現することが有効です。「先生が教え込む授業」から「子どもが学びとる」授業へ変えていくことができます。研究員による20回の研究授業を実施し、その都度研究協議を重ねるとともに学校からの意見も集約し、「Ⅰ箕面市がめざす授業づくり」「Ⅱ授業づくりのポイントと子どもに力をつけるために大切にしたい学習活動」「Ⅲ授業を支える教員のスキル」「Ⅳ系統的、継続的に育てたい子どものスキル」について「箕面の授業の基本」第一版としてまとめ策定いたしました。今後は、別添「箕面の授業の基本」を基盤とした授業実践を各校で重ね、学年を問わず、教科に関係なく、どの校種に於いても活用できるものとしてくために、研究をし、子どもたちに力をつけるための授業づくりに取り組むことが必要です。

# 小学校研究員代表者授業 第3学年 算数科学習指導案

箕面市立西小学校学校  
指導者 本田 雅子

1 日時:平成25年11月日 場所:3年3組 教室

2 第3学年3組 (32名)

3 単元名「重なりに目をつけて」

## 4 単元設定の理由

### (1)教材観

本単元は、2つの量の重なる部分に着目して解く問題の解決を通して、問題解決の能力を伸ばすことをねらいとしている。これまで学習してきたたし算やひき算は、2つの量を考えてきたが重なる部分がない場合であった。本単元では、重なる部分に着目しなければ解決できない問題を通して、図に表すよさに気付かせたり、自分の考えを式に表させたりしていく。

### (2)児童観

本学級の児童は明るく活発で、学習に対して意欲的な子が多い。算数の学習においては、1学期はワークシートやプリントを使って授業することが多かったが、2学期から少しずつノートを使った授業を増やしてきた。ノートの書き方では、マスの使い方や、必ず日付を書くこと、学習するページを記入することなどを指導してきた。また、めあてや自分の考え、まとめ、わかったことの手順で書く学習の流れも身につけてきた。計算問題など技能的な面では、比較的すらすらと解くことができる子が多い。しかし、思考力を伴う学習では、自信がなくなり、友だちの様子を見ながら表現したり発表したりする子が少ない。本単元を通して、考えを図に表すことで表現力を向上させ、グループ活動を通して友達に伝えたり、考えを聞いたりする活動を取り入れることで、思考力を育てていきたいと考えている。

### (3)指導観 具体的な指導方法の明確化

問題を解くにあたって、最初から図で表現できる子が少ないと思われる。なので、一人で考える時間の後、友達と交流していく中でどのように考えたらいいのか、どこに着目したらよいかを考えさせたい。グループ活動という少人数での活動の中で、自分の考えを伝えたり、伝え方を整理させたり、また、友達の意見を聞いて自分の考えにつなげさせ、意見交換をさせたい。そうすることで、最初は解けずに悩んでいた子も図で考えられるようになったことや問題を解くことができるようになったことを実感することができ、算数の楽しさや次時への意欲につながると考える。また、今後の問題解決場面でも活用できるようにしていきたい。

## 5 単元目標

- ・数量の関係をテープ図に表すと分かりやすいことに気づき、それをを用いて問題を解決しようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・2つの量の重なる部分に着目して、答えの求め方を説明している。(思考・判断・表現)

## 6 単元 観点ごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
数量の関係を理解するために、テープ図に表して問題を解決しようとする。	テープ図に表すことによって、2つの量の重なる部分に着目し、順序よく筋道を立てて説明できる。		テープ図を用いて数量の関係をとらえ、問題の解決のしかたがわかる。

7 指導計画 評価計画(評価の重点化) 重点評価項目◎ 評価項目○

時数	小単元	学習内容(ねらい)	関	考	技	知	評価規準 評価方法
1	1	数量関係を理解するために、テープ図に表して問題解決することができる。	◎	○			問題場面をテープ図に表そうとしている。(関・意) テープ図を用い、考え方を順序よく筋道を立てて説明することができる。(思・表)
2	1	テープ図に表すことによって、2つの量の重なる部分に着目し、順序よく筋道を立てて説明できる。	○	◎		○	問題場面をテープ図に表し、問題を解決しようとしている。(関・意) テープ図を用い、考え方を順序よく筋道を立てて説明することができる。(思・表) 数量関係を式に表し、問題を解決することができる。(知・理)

8 本時の目標

- ・図に表すと分かりやすいことに気づき、それを用いて問題を解決しようとしている(関心・意欲・態度)
- ・テープ図を用い、考え方を順序よく、筋道を立てて説明することができる。(思考・判断・表現)

9 本時 評価の観点と評価基準

- ・問題場面をテープ図に表そうとしている。(関・意)
- ・テープ図を用い、考え方を順序よく筋道を立てて説明することができる。(思・表)

10 本時の展開

教師の発問・指示	児童の反応・活動 (予想)	◇指導上の留意点 【評価:評価方法】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <b>学習課題: 重なりのある長さをもとめるには、どうしたらよいか考えよう。</b> </div>		
<p>① 課題をつかむ</p> <p>・長さをはかるときは、何を使いますか。</p> <p>・今日は1mのものさしを使います。1mより長いものの長さをはかるとき、どうすればいいですか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問題: 1mのものさしを2本使って、教室の入り口の高さをはかります。入り口の上からと下から、両方からはかると、ものさしが20cm重なりました。教室の入り口の高さは何cmですか。</p> </div>	<p>・ものさし。</p> <p>・メジャー。</p> <p>・印をつけて、そこからもう一度はかる。</p> <p>・1mのものさしを何本か並べて使う。</p>	<p>◇理科で1mのものさしを使ったことや、体育でメジャーを使ったことを思い出させる。</p>



<p>・分かっていることはなんですか。また、求めることはなんですか。</p> <p>・問題をわかりやすくするためには、どうしたらよいでしょう。</p> <p><b>②自力活動</b></p> <p>・図を使って、重なりのある長さの求め方を考えましょう。</p> <p><b>③学び合い</b></p> <p>・班になって、自分の意見を伝え合いましょう。</p> <p>・班の考えを発表しましょう。</p> <p><b>④まとめ・ふりかえり</b></p> <p>・難しい問題も、図に表して考えると、考えやすくなりますね。</p> <p>・わかったことを書きましょう。</p>	<p>・ものさしの長さが1mである。</p> <p>・1mのものを2本使っている。</p> <p>・ものさしの重なっている部分が20cmである。</p> <p>・求めるのは、入り口の高さ。</p> <p>・図をかけばよい。</p> <p>◇テープ図をかいて、自分の考えを言葉や式に表す。</p> <p>・<math>100+100-20=180</math></p> <p>・<math>100-20+100=180</math></p> <p>・<math>100-20=80</math></p> <p><math>100+80=180</math></p> <p>答え180cm</p> <p>◇班で自分の考えを伝え、相手の考えも聞く。(意見交流)</p> <p>◇交流した意見を、ホワイトボードに書き、発表する。</p> <p>◇まとめをノートに書く。</p> <p>図に表して考えると、考えやすくなる。</p> <p>◇今日の学習でわかったことをノートに書く。</p>	<p>◇イメージがわきにくい児童には、実際に1mのものを重ねて見せる。</p> <p>◇問題をわかりやすくするために、図(テープ図)を用いたらよいことに気付かせる。</p> <p>テープ図をかいて、問題を解決しようとしている。(関・意・態)</p> <p>◇手がつかず、とまどっている児童には、2本のものさしで重なりのない場合とある場合を操作して重なり処理に気付かせる。</p> <p>◇準備物:ホワイトボード</p> <p>テープ図を用い、考え方を順序よく筋道を立てて説明することができる。(思・表)</p>
---	---	---

## 11 板書計画(場の設定)

# 中学校研究員代表者授業 第1学年 英語科学習指導案

箕面市立第二中学校  
指導者 赤城龍一

1. 日時・場所                   2013年11月25日6限目14:15～15:05  
                                  南館3階1年1組教室
2. 学年・クラス               1年1組（38名）
3. 単元名                       canの疑問文
4. 単元設定の理由

### (1)教材観

本課では **can** の疑問形およびその答え方を学習していく。**can** を用いた疑問文の作り方は単純で、肯定文から作ると考えて **can** を文の先頭に出すだけでよい。しかしながら、こうした疑問文の文構造の理解だけでなく、**can** の疑問文がどういった場面で用いられるのかという言語の運用面にも着目する必要がある。

### (2)生徒の実態

本学級には英語を苦手とする生徒はいるものの、元気があり、ゲームなどのコミュニケーション活動への取り組みは大変積極的である。また、言語活動を進める中で互いに教えあいながら理解しようとする姿勢は随所に見られる。従って、演習のあり方を工夫すれば、授業への意欲を持続させ、本課の理解を十分に深めることができると考えられる。

### (3)指導観

生徒たちはコミュニケーション活動に積極的な姿勢を見せている。ゲームを使って楽しく **Can you** ～? の口頭練習を行うなど、運用を通して **can** 表現の定着を図りたい。また、スキットやスピーチの発表を行うなど、場面に応じて言語を運用する力を養っていく。まとまった内容を表現することは、生徒にとっては負担が大きいが、少しずつ関連事項をあげ、練習を重ねていくことで生徒への負担を軽減し、自由な発想で自己表現をさせたい。

また、活動の仕方としては、誰もが活動に積極的に取り組めるよう配慮する必要がある。ペア学習を通して、お互いに励まし合い、助け合いながら学習することで、よりよい人間関係を築くように配慮する。また、発表の際には誤りに対しては寛容に、クラスメートの良さを認め合う雰囲気づくりに努め、生徒それぞれが自信を持って活動できるよう配慮したい。

## 5. 単元目標

- ・ **can** を用いて積極的にコミュニケーション活動に取り組む姿勢を身につける。
- ・ コミュニケーションをより円滑に行う上で欠かせない、場面や状況に応じて正しく尋ねたり、書いたり、理解したりできる力を身につける。
- ・ 表現や理解する際のベースとなるべき、**can** を使った文の意味・構造を理解する。

## 6. 評価基準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化に関する知識・理解
<b>can</b> を用いて積極的にコミュニケーション活動に取り組もうとする。ペアの相手やグループの相手と協力し、評価しようとする。	与えられた場面や題材に応じて、 <b>can</b> の表現を用いながら、正しく話したり、書いたりすることができる。	<b>can</b> の表現が含まれる文を聞いたり、読んだりして、その内容を理解することができる。	<b>can</b> の表現の意味・構造を理解している。

## 7. 指導計画

	学習内容 (ねらい)	関	表	理	知	評価基準
1	比較級を用いてインタビュー (2つのものを比べる ~er)	◎	○		○	canを用いて積極的に対話している。相手に自分のできること、できないことを伝えられる。
2	can の肯定文・否定文復習 Q&A を通じて内容をつかむ (Lesson 7 A の概要をつかむ)			◎	○	canの肯定文・否定文の構造を理解し、本文の内容に関する問いに、日本語や簡単な英語で答えることができる。
3 (本時)	can の疑問文ゲーム ペアでスキット	◎	○		○	can を用いて積極的に対話している。相手にできるかどうかたずね、それに答えることができる。
4	can の疑問文復習 Q&A を通じて内容をつかむ (Lesson 7 B の概要をつかむ)			◎	○	canの疑問文の構造を理解し、本文の内容に関する問いに、日本語や簡単な英語で答えることができる。
5	作文 (can のまとめ) (can, cannot を使った作文)		◎		○	積極的に文を書こうとしている can の表現を適切に用いて、自分の意思を正しく伝えることができる。
6	show and tell (前の時間に書いた作文を show&tell の形式で発表する)	○	◎	○		アイコンタクト、問いかけを意識する。can の表現を適切に用いて、自分の意思が正しく聞き手に伝わるよう発表できる。

## 8. 本時の目標

Can you ~?の表現を積極的に用いて相手と対話し、相手にできるかどうか尋ねたり答えたりすることができる。

## 9. 本時の観点と評価基準

- ①コミュニケーション活動に積極的に取り組むことができる。  
 <生徒が興味をもって主体的に活動できるようにゲームなどを取り入れる>
- ②Can you ~? の文構造を理解している。  
 <個人で考え、書く時間を保障し、知識の定着を図る>
- ③会話の中で、上記の表現を適切に用いることができる。  
 <スキットをペアで作成し、意見を交流することによって、場面やコンテキストに応じた Can you ~?の運用を狙う。またペアの形態にすることにより、配慮を要する生徒への支援を図る>

## 10. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価基準 (方法)
Introduction (課題をつかむ) Can you ~? の表現を提示し、意味を確認する。	・本時の学習のポイントを示す。	
Oral Practice パターンプラクティス Can you ~? Yes, I can. / No, I can't.	・次の活動がスムーズに行われるように下地をつくる。	
Oral Practice Can you ~?を使ったゲーム	・生徒自信が主体的にターゲットセンテンスを用いる。	・Can you ~?の表現を用い積極的に活動しているか (関心・意欲・態度)
Individual activity (自力活動)	・ターゲットセンテンス	・Can you ~?の構造を理解している

		か (知識)
<b>Pare activity (学びあい)</b> Can you~?を含む会話文をペアで作成し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の声かけで子どもたちのモチベーションを高める。</li> <li>・生徒の言語運用をサポートする。</li> <li>・原稿を作成したペアは対話の練習を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア相手。グループのメンバーと協力し合って会話を作っているか。(関心・意欲・態度)</li> <li>・Can you~?の表現を会話の中で適切に使えているか。書けているか。(表現)</li> </ul>
<b>発表</b> ペアで発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りに聞こえるようにできるだけ大きな声で発表するよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲に会話の中身を伝えようとしているか。(表現)</li> <li>・他のペアの発表をしっかり聞いているか。(関心・意欲・態度)</li> </ul>
<b>ふり返り</b> ・本時の学習をふり返りをワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表できなかったペアは次の時間を使って発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後、ワークシートに書かれた会話の内容(表現)と感想(関心・意欲・態度)を評価し、次の時間活かすようにする。</li> </ul>

## 11. 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">Today's target</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           1. game            2. worksheet            3. skit(pair)         </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px;">蜻</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px;">蛉</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           example            You <u>can</u> read this.            ↙  <u>Can</u> you read this?            Yes, I can. /No, I can't.         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           worksheet answer           <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 _____</td> <td style="width: 50%;">2 _____</td> </tr> <tr> <td>3 _____</td> <td>4 _____</td> </tr> <tr> <td>5 _____</td> <td>6 _____</td> </tr> <tr> <td>7 _____</td> <td>8 _____</td> </tr> </table> </div>	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____	5 _____	6 _____	7 _____	8 _____
1 _____	2 _____									
3 _____	4 _____									
5 _____	6 _____									
7 _____	8 _____									

# Can you~? ペアワークシート

class ( ) No.( ) name ( )

## 1. Model

A: Hi, Ryuichi. **Can you** play baseball?

B: No, **I can't**. **Can you?**

A: Yes, **I can**. I **can** play soccer, too. (←ここまでできたら合格!)

B: Oh, I like it. Let's play together! (←発展)

## 2. Let's make a dialogue! モデルを参考にし、会話を作ろう。

( ):.....

( ):.....

( ):.....

( ):.....

( ):.....

## 話題のヒント

speak Japanese(日本語を話す) / read Japanese(日本語を読む)

eat *natto*(納豆を食べる) / eat *umeboshi*(梅干しを食べる)

do *karate*(空手をする) / do *judo*(柔道をする)

play *shogi*(将棋をする) / play chess(チェスをする)

sing well(上手に歌う) / dance well(上手に踊る)

\*その他どんな話題を選んでもかまいません。

## 3. Let's review! 授業の振り返りをしよう。

今日の学習の感想(しっかり考えて書こう!)

Can you~? 練習プリント  
class( ) No.( ) name( )

以下の表現を疑問文(~できますか?)に書き換えなさい。

1.You can play tennis. (あなたはテニスができます。)

疑問文

---

2.You can play soccer. (あなたはサッカーができます。)

疑問文

---

3.You can eat sushi. (あなたはすしを食べれます。)

疑問文

---

4.You can speak English. (あなたは英語を話せます。)

疑問文

---

5.You can ski well. (あなたは上手にスキーができます。)

疑問文

---

6.Jiro can skate well. (ジローは上手にスケートができます。)

疑問文

---

## Can you~? 練習プリント（発展）

以下の日本語の表現を英語に書き換えなさい。

1.あなたはテニスができますか。

---

2.あなたはサッカーができますか。

---

3.あなたは寿司を食べられますか。

---

4.あなたは英語を話せますか。

---

5.あなたは上手にスキーができますか。

---

6.ジローは上手にスケートができますか。

---

☆7.ジローとタローは上手にフランス語を話せますか。

---